

改修工事後の さわやかちば県民プラザ

令和元年10月末に火災報知器の不具合により休館となり、利用者は困惑されました。そのさわやかちば県民プラザは予定通り令和2年8月に復旧、再開致しました。



Q さわやかちば県民プラザの改修後の利用状況はどうか。

A 再開した令和2年8月1日から12月まで利用者数は71,037人であり、開所していた平成30年度同時期の利用者数149,631人と比較すると約53%の減となっており、その主な原因としては、休所期間中に予約を中止していたことや、新型コロナウイルスの感染防止対策による利用制限によるものと考えている。

視点 施設利用者が前年比約53%減と言いましても、緊急事態宣言発令も重なり、コロナ禍での再開ということで実感はわからないところでございます。しかし、予定通り再開できたことにより県民の皆様も安心したと思います。開設から24年と老朽化も進んできておりますので、今後は長期休館することのないよう施設内の計画的な改修の徹底してゆくことを要望しました。

Q 再開後の新型コロナウイルス対策はどうか。

A 国の緊急事態宣言を受け、これまでの検温システムによる確認や研修室等の利用定員を半分とするなどの対応に加え、新規利用の予約を中止するとともに、21時の閉所時間を17時とするなどの利用制限を行い、利用者を受け入れている。

視点 改修工事中に新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言発令と、二重の負荷がかかってしまいましたが、今後も感染拡大防止対策の徹底をお願いしました。

交通死亡事故死者数 全国ワースト脱却！

令和2年は交通事故死者数全国ワーストからの脱却と第10次千葉県交通安全計画で目標としていた年間交通死亡事故死者数150人以下を達成しました。



県議会予算委員会で質問中の松崎県議

Q 令和3年の交通事故抑止に向けた取組状況はどうか。

A 本年の交通事故抑止対策については、昨年の交通死亡事故の分析から、飲酒運転による死亡事故が全国上位であること、交通事故死者の半数以上が高齢者であること、信号機のある横断歩道でも事故が多く発生していることなどを踏まえ、昨年に引き続き、

- ・「飲酒運転等危険な運転の根絶」
- ・「高齢者安全対策の強化」
- ・「歩行者保護『ゼブラ・ストップ』の徹底」

を交通事故抑止対策の3つの柱に据えて、「悲惨な交通事故の根絶」を合言葉に、「交通安全県ちば」の実現を目指していく。

視点 飲酒運転は最も悪質な交通違反と考えます。事故になっていないだけで、飲酒をして運転しているケースもまだまだ多いのだと思いますので、飲酒運転根絶に向けた啓発の強化すべきと訴えました。本年も交通事故防止対策に努め、引き続きの取締り強化を要望しました。



松崎たかひろプロフィール

1981年5月14日生まれ。(39才)

名戸ヶ谷小学校、柏第四中学校、八千代松陰高等学校卒業。高校在学中はラグビー部に所属。

駒澤大学文学部歴史学科卒業後、13年間のサラリーマン生活を経て2019年より千葉県議会議員(現在1期目)。